

# 愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	【併用】 専門演習Ⅳ		
担当者(Instructors)	橋 廣	配当年次(Dividend year)	4
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

## ■ 授業の目的と概要(Course purpose/outline)

専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに続き、本演習ではこれまでのまとめとなるプレゼンテーションの方法を修得することを主な目的とする。プレゼンテーションの方法は、次のように順を追って修得する。(1)発表の原稿作成。(2)発表の資料作成。(3)発表のために最も効果的なプレゼンテーションの方法の模索。(4)使用機器の練習。(5)他者に訴えるためのキーワードの検討。(6)発表と質疑応答。最終的に、集大成として論文を提出する。研究を進める過程で、ゼミ内で適宜研究報告を行い討論する。互いの意見交換の中でより良い方法を検討していく。

## ■ 授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	授業の内容に応じて、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを取り入れて行う。

## ■ 各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	ガイダンス	専門演習のⅣの進め方、受講上の注意点を説明する。	<input type="checkbox"/>
第2回	論文執筆の注意点	長文の提出文書作成上の注意点を説明する。	<input type="checkbox"/>
第3回	効果的なプレゼンテーション	発表のために効果的なプレゼンテーションの方法を資料を基に考える。	<input type="checkbox"/>
第4回	発表の原稿作成	発表の原稿を作成する。	<input type="checkbox"/>
第5回	発表の資料作成	発表の資料を作成する。	<input type="checkbox"/>
第6回	プレゼンテーションの話し方のポイント	プレゼンテーションの話し方のポイントを資料を基に検討する。	<input type="checkbox"/>
第7回	使用機器の練習	使用機器の練習をする。	<input type="checkbox"/>
第8回	キーワードの検討	他者に説明するためのキーワードを検討する。	<input type="checkbox"/>
第9回	討論の方法	目的に応じた討論の方法を検討する。	<input type="checkbox"/>
第10回	ブレイン・ストーミングとKJ法	ブレイン・ストーミングとKJ法を体験する。	<input type="checkbox"/>
第11回	発表と質疑応答	研究成果をゼミ内で発表し質疑応答をする。	<input type="checkbox"/>
第12回	レポート・論文の提出	レポート・論文の提出をする。	<input type="checkbox"/>
第13回	ゼミナール発表会の準備(1)	ゼミナール発表会の発表代表者を決定する。	<input type="checkbox"/>
第14回	ゼミナール発表会の準備(2)	ゼミナール発表会の資料作成や発表原稿を準備する。	<input type="checkbox"/>
第15回	ゼミナール発表会での発表・質疑応答	ゼミナール発表会で発表・質疑応答をする。	<input type="checkbox"/>

## ■ 授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)

事前学習として、発表の原稿作成や資料作成、発表準備など、毎授業前までに学習をする(2時間程度)。事後学習として、授業内で提示された課題について学習をする(2時間程度)。

## ■ 課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回提出された課題レポートは、まとめて翌週フィードバックし、全体で共有する。

## ■ 授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
--------------	-------------------	-----------------

	◆ 2018人間健康DP2	論文の作成や研究発表、討論参加など、問題意識を持って積極的に課題に取り組むことができる。
--	---------------	--

■成績評価(Evaluation method)				
筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			20%	80%
<b>授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)</b>				
研究発表の内容及び論文(40%) 毎回授業時に提出する課題レポート (40%)				

■テキスト(Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)		
No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業の中で適宜紹介する。	
2		
3		
4		
5		